

# 学校教育講座 出口 拓彦 教授



## なぜ「してはいけない」ことをするのか？



キーワード 心理学/ 学級/ 集団/ 規範/ シミュレーション

### どのような研究をなぜ行っているか

「学校のクラス」などの「集団」では、「してはいけない」ということがわかっている行動であっても、時として発生してしまうことがあります。例を挙げると、「授業とは関係の無いおしゃべり（私語）」などです。また、児童生徒だけではなく、「教員」にも同じような現象は見られます。例えば「教員間いじめ」（出口, 2020）などです。「いじめ」が「してはいけない」行動であることは、学校の「教員」であれば十分にわかっているはずですが、数年前に報道機関でも取り上げられたように、実際には（残念なことに）、教員同士での「いじめ」が起っています。このような問題を考えるために、「個々人では『してはいけない』と思っているのに、なぜ『集団』になると、そのような行動をしてしまうのか」ということについて、主として社会心理学的な観点から研究しています。※詳しくは、個人ページをご覧ください。 <http://mailsrv.nara-edu.ac.jp/~deguchi/index.html>

図1は、「授業中の私語」が、どのように「集団」に広がるのか（色が付いている○が私語をしている）を模式的に示したものです（出口, 2006, 2021a）。ここでは、「自分の上下左右にいる4人のうち、半分以上が私語をしたら、つられて私語をする」という多数決的なルールで「私語をするかしないか」を決めています。そして、最初は9人中2人しか私語をしていないにもかかわらず、最終的には全員がしています。実際の研究では、もっと多くの「個人」が集まってできた「集団」でのやり取り（相互作用）について、コンピュータ・シミュレーションなどを使って調べています。このように、個人間の相互作用に着目しつつ、「してはいけない」ことをする過程について研究しています。

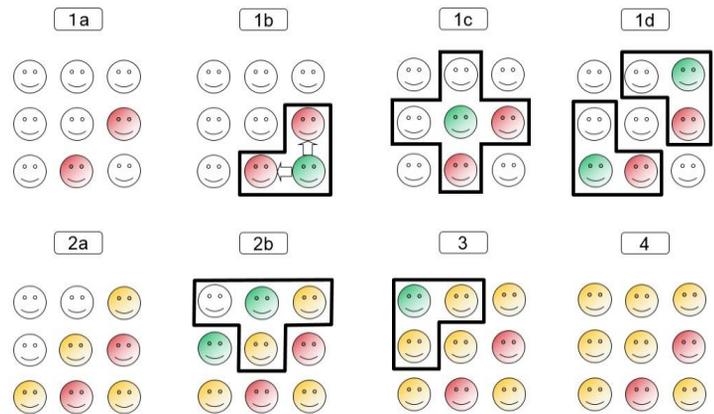


図1 私語が教室に広がる過程の一例

([https://www.nara-edu.ac.jp/nakkyon\\_knowledge/blog/2021/06/post-12.html](https://www.nara-edu.ac.jp/nakkyon_knowledge/blog/2021/06/post-12.html) より引用)

### 研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

学校で「私語」や「いじめ」が生じるのは、「『してはいけない』行動だということを理解していないから」という理由だけではない可能性があります。この場合、これらの問題を減らそうとしたとき、例えば「規範意識」を高めるといった対応「だけでは」、もしかすると不十分かもしれません（出口, 2021b）。そこで、「なぜ『してはいけない』ことをするのか」ということがわかれば、このような問題への対策を考えるためのヒントが得られると考えています。今は、研究結果を応用して「規範逸脱行動を考える指導案」などを作成して、その効果について検証しています（出口, 2019, 印刷中）。

### これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- 日本学校心理士会奈良支部長, 日本学校心理士会奈良県幹事 (2021年-)
- 独立行政法人国際協力機構(JICA): 「カンボジア国教員養成大学設立のための基盤構築プロジェクト」(教育心理学担当) (2017年-)
- 名古屋大学教育学部附属中学校「ソーシャル・ライフ」授業作成・実施 (2000年-2003年)

